

令和 7 年度

「運営に関する計画」



大阪市立中大江小学校

大阪市立中大江小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○学期ごとの「いじめアンケート」で実態を把握し、その都度速やかに聞き取り等の対応をするとともに、子どもに寄り添いながら解決と再発防止に当たってきた。対処的な指導ではなく、自分を大切にし、まわりの人を大切にする指導を継続し、いじめそのものが起きないような集団作りを目指し、学級担任や学年団だけではなく、学校全体としていじめを撲滅する取り組みを続けていく。

○学校に行きづらい、学校に行けないと感じる児童の割合は年々増加しており、不登校に定義される児童の数は増え続けている。

○昨年度も引き続き、オンライン朝会や、学級活動、帰りの会などで学校のきまりについてふり返る時間を確保したことで、「学校のきまりや規則を守っている」の項目では肯定的な回答をしている児童の割合が一昨年の 84% から 89% と増えている。しかしながら、実際にはきまりを守れていない場面を見る機会が多く、児童の意識の改善も引き続き行っていく必要がある。

○積極的に ICT 機器を活用して授業を実践してきた。また、児童も学習の中で多くの時間に ICT 機器に触れ合うことができていた。しかしながら、年度目標である ICT 機器の使用頻度に関わるアンケートにおいては、目標と結果に大きな乖離が見られた。

○体育の授業において 20m シャトルランや 3 分間走などに取り組むことに加え、休み時間の体育館開放、バスケットコートやボルダリングスペースの開放、ピロティ部分の活用などを行い、運動の機会を増やすような取り組みをしてきた。今後は、感染対策を行いつつ体育的行事などを行うことによって、運動に消極的な児童も体を動かす機会を増やしていくようにしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を、令和 3 年度より 1 ポイント増加させる。
- ・令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現（言語についての知識・理解・技能）に関する項目の平均正答率を、令和 3 年度より 1 ポイント増加させる。

- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和7年度の全国学力・学習状況調査の「5年生のときに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、85%以上にする。
- ・ゆとりの日の設定を、週1回以上設定する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。
(R6本校81.1% 市81.5%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(R6本校2.08%)
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。
(R6本校93.7% 市95.0%)
- ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。
(R6本校82.3% 市80.0%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
(R6 3年1.08 4年1.06 5年1.06)
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。
(R6本校84.3% 市78.7%)
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。
(R6本校43.7% 市40.5%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。
(R6本校69.0% 市68.9%)

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕
- ・ 第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を７０％以上にする。

(Ｒ６本校６９．０５％ 市６２．１６％)

(参考)

基準１ ア １か月の時間外勤務時間が４５時間を超えないようにすること

イ １年間の時間外勤務時間が３６０時間を超えないようにすること

３ 本年度の自己評価結果の総括**【安全・安心な教育の推進】****【未来を切り拓く学力・体力の向上】****【学びを支える教育環境の充実】**

(様式２)

大阪市立中大江小学校 令和７年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標１ 安全・安心な教育の推進】 <ul style="list-style-type: none">・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を８３％以上にする。 (Ｒ６本校８１．１％ 市８１．５％)・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (Ｒ６本校２．０８％)・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９５％以上にする。 (Ｒ６本校９３．７％ 市９５．０％)・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８３％以上にする。 (Ｒ６本校８２．３％ 市８０．０％)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○ 毎学期行ういじめアンケート等でいじめの早期発見に努め、適切に対応する。また、人権教育や道徳教育、体験活動等、教育活動全体を通して、児童自身が主体的にいじめ防止に向けた取組を進めることで、いじめの未然防止につなげる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳等の学習や各学年の人権実践を通して、いじめを許さない学級集団になるようにする。 ・ 各教科・領域において、児童が主体的に活動する実践を学期に1回以上行うことで、自治的な学校風土を築く。 	
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○ 支援が必要な児童について学校全体で共有するだけでなく、チーム支援の方法を考える会議をもつ。また、日々の授業づくりや特別活動を通して、すべての児童にとってわかりやすい授業になるよう工夫し、学級が安心して過ごせる雰囲気になるような集団づくりを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「こころの天気」を活用して児童の実態把握に努める。 ・ 個別に課題のある児童や、各学級の様子について話し合う生活指導連絡会を月1回以上実施し、学級集団に入りにくい児童や学級を組織的に支援する。 ・ 学級集団づくりにつながる実践を学期に1回取り組む。 	
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】</p> <p>○ 児童が所属する最も基本の集団である学級で、一人ひとりが役割をもって活躍できるようにするとともに、幼小交流を各学年年間1回以上実施したり、クラブ活動や委員会活動を含めた学年間の異年齢交流を進めたりすることで、自己有用感を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級で学級活動の充実を図る。また、たてわり班活動の色別集会（月2回）や委員会活動（年間8回以上）、クラブ活動（年間13回以上）を継続して実施することで、児童が自主的に活動する機会を設け、実践を通して学ぶことができるようにする。 ・ 継続して取り組んでいる幼小交流を各学年1回以上実施し、豊かな心を育む。 	
<p>取組内容④【2 豊かな心の育成】</p> <p>○ 人権教育年間計画に沿って、多様な考えや「ちがい」について考える取組を計画的に実施するとともに、日々の実践の中で、誰もが尊重される学級集団づくりを行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育年間計画に沿って実践するとともに、年度当初に、各学級または学年において、「ちがい」について考える取り組みを実施し、誰もが尊重されることを実感できるようにする。 ・ 学級会を計画的に実施し、児童の実態に合わせた、自治的な学級づくりができるようにする。 	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式2)

大阪市立中大江小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 (R6 3年1.08 4年1.06 5年1.06) 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。 (R6 本校84.3% 市78.7%) 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を45%以上にする。 (R6 本校43.7% 市40.5%) 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。 (R6 本校69.0% 市68.9%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 学力向上に向けた国語の検証授業や、教員全員が取り組む「一人一授業」を、相互参観することで、教員の授業力向上を図る。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語の検証授業を学校として年間2回以上、「一人一授業」を教員それぞれが年間1回以上取り組む。また、多くの教員が授業に参加しやすいように工夫し、それぞれの教員が公開に参加する回数を3回以上として授業力向上を図る。 	

<p>取組内容②【４ 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ ３年生以上の理科専科教員と理科補助員が連携し、実験・観察を充実させることで、児童が理科の授業に前向きに取り組むことができるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科授業を年間１回ずつ公開し、各学年の系統性を整理するとともに、児童が主体的に取り組む授業について研鑽を積む。 	
<p>取組内容③【４ 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○ 各教科において、１つの単元の中で１回以上対話的な学びにつながる学習に取り組む。また、特別活動や総合的な学習において、児童が主体的に活動し、学び合いを深める実践を行う。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一人一授業」や研究授業、学力向上に向けた検証授業において、参観の視点に「言語活動」を設定し、対話的な授業が学校全体で実践されるようにする。 	
<p>取組内容④【５ 健やかな体の育成】</p> <p>○ 研究教科を体育科とし、研究授業や討議会、研修会等で学んだ授業の工夫を生かして授業改善に取り組み、運動好きの児童を増やす。また、多様な運動の機会をもてるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年の実態に応じた体育科の研究授業を年間６回以上行うことで、仲間と関わりながら体を動かすことの楽しさや心地よさを感じることができるようにする。 出前授業や委員会等の取組を通して、運動時間が確保できる機会を学期に１回以上もてるようにする。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

(様式２)

大阪市立中大江小学校 令和７年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標３ 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の５０％以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く〕 第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を７０％以上にする。 (Ｒ６本校６９．０５％ 市６２．１６％) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【6 教育D X（デジタルトランスフォーメーションの推進）】</p> <p>○ こころの天気を入力するなど、学年の発達段階に応じた方法で日々学習者用端末を使う習慣をつけるとともに、学年の発達段階に合わせたキーボード入力等の習熟を図り、情報処理能力を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I C T研修を学期に1回以上実施してタブレットの活用を進め、学校生活アンケートの「毎日タブレットを使っていますか。」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。（R6 74.4%） 	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○ ゆとりの日を週1回設定して会議等を入れないようにし、業務管理を意識できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事予定にゆとりの日を明記し、計画的に実施できるようにすることで、第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を、昨年度よりも改善する。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	